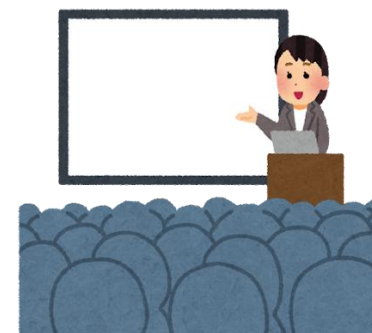


令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

疑似体験プログラム 知的障がい・発達障がい	実施のねらい	障がいのある子ども達の行動や感じ方を疑似体験し、知的障がい、発達障がいとはどんなことなのか知る	
	内容	知的障がい、発達障がいがある人たちの行動や感じ方を、パワーポイントによる説明や疑似体験、お芝居等により知ってもらう体験	①準備するもの [学校で準備] ・ホワイトボードまたはマグネットの使いができる黒板 ・スクリーン、マイク、スピーカー ・おり紙、使い捨てのビニール手袋 ②実施場所：暗幕が使える教室 ③その他 ・障がい児の母親による活動のため、できるだけ午前中をお願いします。 午後を希望する場合は相談してください。 ・今後の活動のため、アンケートへの協力をお願いします。 ・「ともに生きる」等を活用し、事前学習の実施をお願いします。 ④事前打合せの方法：講師から学校へ電話し、学校で担任の先生との事前打合せを行います。当日使用する教室の様子を見せてください。（実施の1～2ヶ月頃前に行えるようお願いいたします）
	対応可能範囲	40人/クラス（同時間に2クラスまで） 2コマ/日まで 小学生5年生以上を対象 （理解を促進するため6年生以上が望ましい） ※1時間目は実施できません。2時間目以降で計画してください	
	講師数/クラス	3～5人（ボランティア）	
	社協からの借用物品（最大数）	なし	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

シルバー疑似体験	実施のねらい	高齢者は普段の生活の中でどのようなことが大変か、どのような工夫が必要か、自分たちはどんなことに気を付けると良いかを知る	
	内容	シルバー疑似体験（80歳くらいの高齢者の疑似体験）	①準備するもの [社協から借用] シルバー疑似体験セット（中学生以上は大人用セット） ・児童・生徒の人数分の簡易手袋 [学校で準備] ・筆記用具、メモ用紙など（内容に応じて） ②実施場所：特別教室 ③その他 ・シルバー疑似体験セットを装着した状態で学校内を歩くため、事故が起きないように、授業のサポートをお願いします。 ④事前打合せの方法：講師から学校へ電話し、学校で事前打合せを行います。
	対応可能範囲	40人/クラス（同時刻に1クラスまで） 2コマ/日まで（3コマ以上は要相談） ※中学校以上の実施は、1コマの時間を60分確保してください	
	講師数/クラス	2～3人（ボランティア） ※人数は要相談	
	社協からの借用物品（最大数）	シルバー疑似体験セット 20セット (2人で1セット使用)	

このように、装具を付けての体験になります



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

認知症の理解 (認知症サポーター養成講座)	実施のねらい	認知症について正しく理解し、自分にできることを考え、相手を思いやることを養う	
	内 容	・講義 認知症がもの忘れの病気である事、認知症の困り事を知る ・認知症高齢者への対応例(寸劇)を見る ・グループ単位で話し合いをする	①準備するもの [学校で準備] ・スクリーン、パソコン、プロジェクター、寸劇用学習セット(机1本、椅子3脚) ・マイク(会場の規模によって用意をお願いすることがあります) ②実施場所: 教室、体育館等 ③事前打合せの方法: 講師から学校へ電話し、学校で事前打合せを行います。 ④その他
	対応可能範囲	学年単位(人数によって2学年合同も可) ※クラス単位での開催は要相談	・小学校4年生以上が望ましいです。(小学校3年生までは要相談) ・寸劇は先生にご協力をお願いしています。(簡単なシナリオを読むのみ) ・全国統一の小学校用・中学生用テキストを無料で一人一冊配布します。
	講師数/クラス	1～2人(講師研修受講修了者) ※講師謝礼は必要ありません	
	所要時間	1コマ	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

車いす 	実施のねらい	車いすユーザーのサポートについて考えたり、実際にコミュニケーションを通してそれぞれの立場を認め、お互いに尊重する気持ちを育てる 車いすユーザーが街の中でどんなところで困るか、車いすでの生活はいかに大変かを理解する	
	内 容	・当事者講師による講話(当事者講師の日常生活を交えて) ・車椅子体験(当事者体験、補助者体験) ・振り返り(質疑応答等)	①準備するもの [社協から借用] ・車いす(3～4人で1台使用) ・スロープ(体育館までの行程に段差がある場合は必要です。学校にある場合は借用の必要はありません)。 [学校で準備] ・マット(体育館で行う場合、車いすと同数) ・パイプいす又はコーン(車いす×2～3脚) ②実施場所:体育館。中学・高校の場合は屋外での実施も可ですが、事前に入念な打ち合わせをお願いします。 ③その他 ・講師(車いす利用者)が公共交通機関等で、学校まで1人で行きます。 ・車いす利用者以外の2名の講師は、車いすの操作指導ボランティアです。車いす講師の介助(体育館への出入りやトイレ等)は、先生方をお願いします。 ・2コマ以上の連続した時間で行う場合は、パワーポイント等を使用した講話と体験を行います。 ④事前打合せの方法:講師が決まり次第、社協よりお伝えいたしますので、実施の約1か月前に学校から連絡してください。
	対応可能範囲	40人/クラス(同時間に1クラスまで) 3コマ/日まで ※1時間目は実施できません。2時間目以降で計画してください	
	講師数/クラス	3人 (車いす利用者1人、車いすの操作指導ボランティア2人)	
	社協からの借用物品(最大数)	・車いす13台(3～4人で1台使用) ・スロープ1	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

要約筆記	実施のねらい	聴覚障がい者(主に手話を使わない中途失聴者や難聴者)の特性と、コミュニケーションの方法を理解する 耳の聞こえない体験、文字で情報を伝える要約筆記・筆談の体験を通して、難聴者との接し方を学び、災害時などの情報支援につなげる	
	内 容	・講義：聴覚障がい者への理解（当事者の体験談など） ・要約筆記・筆談体験の指導（文字で伝える支援） ※聴覚障がい者の方とのコミュニケーションの一つとして要約筆記を体験します	①準備するもの [講師が持参]・要約筆記セット [学校で準備]・OHC・プロジェクター・スクリーン・コピー用紙 ②実施場所：暗幕が使える教室 ③その他：当日は、機器等の準備のため、授業開始30分前に入室させてください。 ④事前打合せの方法：当日担当する講師が学校に連絡し、事前打合せの日程を相談します。 事前打合せは学校で行い、OHCや教室の様子を確認します。 ※「難しそう」との声が聞かれることがありますが、小学校での実施の場合、児童の学年に応じて内容をわかりやすくしますので、ぜひお申込みください。
	対応可能範囲	40人/クラス（同時間に1クラスまで） 2コマ/日まで	
	講師数/クラス	4人（聴覚障がい者1人、ボランティア3人）	
	社協からの借用物品（最大数）	なし	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

手話	実施のねらい	聴覚障がいについて理解し、自分たちにできることを考える 聞こえない人とのコミュニケーション方法は手話だけではなく、手話が分からなくても会話できることを体験しながら学ぶ	
	内 容	・手話体験の指導 ・講義：聴覚障がい者への理解	①準備するもの [社協から借用]・聴覚障がい者用時計 [学校で準備]・マグネットの使用ができる黒板 ②実施場所：通常教室 ③その他 ・講師は聴覚障がい者の方なので、FAX送信表で、やり取りを行ってください。 やり取りに時間がかかるため、返答の締め切りがある場合は、 <u>至急</u> とFAXに記入してください。 ・今後の指導のため、体験後に児童・生徒の反応や感想を聞かせてください。 ・2コマ連続での学習や、2日に渡っての学習の方が、より充実した内容になるので、そのような申込みも検討してください。 ・講師は聴覚障がい者のため、担任の先生が授業中に突然発言されると戸惑うことがあります。担任の先生にお手伝いをお願いしたい時は、講師から伝えます。 ・授業で使用する「聴覚障がい者用時計」と「聴覚障がい者用時計学校での使用方法（ラミネート）」は、当日体験学習が始まる前に講師に渡してください。講師は体験学習30分前には学校に伺いますので、講師の方で準備して使えるようにします。体験学習終了後、先生に返却させていただきます。 ④事前打合せの方法：当日担当する講師名を講師からFAXし、事前打合せの日程を相談します。事前打合せは学校で行います。なお、FAXが届いたら、その都度、当日担当する講師に受信の有無を回答してください。
	対応可能範囲	・40人/クラス（同時間に2クラスまで） ・2コマ/日まで ※2時間目以降で計画してください	
	講師数/クラス	2人（聴覚障がい者1人、手話通訳1人） ※同時に行う場合は4人まで	
	社協からの借用物品（最大数）	・聴覚障がい者用時計（1クラス1台）	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

視覚障がい当事者の講話①

実施のねらい	視覚障がい当事者の講話を通し、視覚障がいについての理解を深める	
内 容	・講義：視覚障がい者への理解 ・ピアノ演奏 ※ピアノ講師をしている当事者が子どもたちの前で演奏を行います。 ・体験：アイマスク体験の指導	① 準備するもの ・児童・生徒の年齢によって体験内容が変わります。そのため、打合せ時に必要物品を確認してください。(例：アイマスク、白杖) ② 実施場所：通常教室（ピアノ演奏を行う場合は、音楽室及び体育館） ③ 事前打合せの方法：担当講師より連絡し、直接学校で、内容についての打ち合わせを行います。 【小学校】 ・見えない生活について（苦勞すること・逆に変わらない部分とは何かについての説明・または実際に子供たちに考えてもらう） ・アイマスクやタオル・ハンカチなどを用いて見えない感覚でできるゲームの実践（例：じゃんけん・席替えなどのいすとりゲームなど） ・アイマスク・ガイド体験（実際に歩いて気を付けなければならない場所など・注意しなければならないことなどの説明） ※小学校では、できるだけ講義形式ではなく、子供たちと一緒に考えたり、実践を取り入れたりしていれば良いと考えています。特に、3年生・4年生などの低学年向けにはじゃんけんや席替えをかねたいすとりゲームなどを取り入れます。 【中学校以上】 ・自分の中学生時代の体験談（中学3年生の時に、視力を完全に失い、そのころに感じていた心の葛藤など） ・見えない苦しみや苦勞をどう乗り越えてきたか（見えない絶望感からどう克服したかなど） ・現在の仕事（ピアノの演奏者として）で工夫していることについて ・健常者に自分の見えない障がいを伝える難しさについて ※中学校以上では、講師自ら経験した見えないことを受け入れること・仕事で工夫していること・自分の障がいを伝える難しさ（なかなか伝わらない現状）などを講義形式でお話しし、生徒に考えていただき、ディスカッションができると良いと考えています。また、レジュメなどの資料を用意し、事後学習や将来の進路について役立ててもらえるようにしていきたいと考えています。
対応可能範囲	講義なので、生徒数の上限なし ※4コマ/日まで ※最寄りの駅までの送迎が必要です	
講師数/クラス	1人（視覚障がい者1人）	
社協からの借用物品 (最大数)	必要に応じて ・白杖 ・点字ブロック など	

令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

視覚障がい当事者の講話②

実施のねらい	アイマスク体験を通じて、視覚障がい当事者の「のっぽさん」から多様性とコミュニケーション、インクルーシブについて学び考える	
内 容	・当事者の生の声を聴く ・アイマスク（見えない）体験から学ぶ ・幸せになれるコミュニケーションのコツを学ぶ ・自分事として考える ・自分が出来ることを考える ・インクルーシブデザイン	① 準備するもの [学校で準備] ・各自、目かくしのためのマスク（アイマスク又は通常のマスクをアイマスクとして使用） ・実物投影機（A4サイズに印刷した資料を使って説明をします） ・マイク（会場の広さにより1～2本必要な場合あり） ② 実施場所：通常教室 ※複数クラスで同時開催の場合は要相談 ③ その他 ・詳細については、事前打ち合わせにて決定する 【伝えたいこと】 ・助けてもらう勇気、生きていることの価値、幸せのコツ 【内容】 ・視覚障がいとは ・アイマスクじゃんけん ・暗やみ席替え ・見えないからこそわかること ・バンドエイド巻 ・ガイドヘルプ体験（二人一組） ・障がい者への声かけフレーズ ・視覚障がい者「のっぽさんの生活と工夫」 ・なんでも質問タイム ④ 事前打合せの方法 ・1～2か月ほど前にZOOMまたはお電話にて事前打ち合わせをさせていただきます。
対応可能範囲	・小学3年生から大人まで ・オンライン講座 可能 ・事前に視聴ができるDVD あり ※勝川駅から車で20分以内の学校（講師が遠方のため）	
講師数/クラス	2人（メイン講師：視覚障がい者、アシスタント講師：福祉支援者）	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

点 字	実施のねらい	点字への理解を深める中で、視覚障がい者への理解を深めるとともに福祉の心を育む	
	内容	・点字の仕組み ・点字表記のルール ・単語や氏名の書き方（小学校中高学年） ・短い文章の書き方（中学校、高校）	①準備するもの [社協から借用]・点字板、点字本、点字講師セット、資料が入った布袋 [学校で準備] ・資料を当日までに人数分印刷しておいてください。（資料の原本は、点字板等と共に、市社協から学校へお渡しします）
	対応可能範囲	・40人/クラス（同時間に2クラスまで） ・2コマ/日まで（同時間に3クラス、3コマ/日は要相談） ※1コマの時間は小学校の場合45分、中学校の場合50分を確保してください ※学年によっては授業内容をご相談する場合があります	②実施場所：通常教室（特別教室の場合、児童・生徒が黒板に背を向けることになる場合があるため、避けてください。） ④事前打合せの方法：1ヶ月前を目安に、当日担当する講師の連絡先を郵送でお知らせします。授業の2週間前までに、当日担当する講師と電話にて必ず事前打合せをしてください。 その他 ・点字用紙の実費負担が必要です。当日の講師に直接お支払いください。（1人あたり10円）
	講師数/クラス	小学校4年生以上は2人、小学校3年生以下は3人（ボランティア） ※4年生以上が望ましい	
	社協からの借用物品（最大数）	・点字板86枚（1人1枚使用） ・点字本3セット ・点字講師セット3セット ・資料が入った布袋	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

ガイドヘルプ	実施のねらい	障がい者と健常者が分けへだてなく共生出来る社会をつくるために、ガイドヘルプ体験を通して、視覚障がい者やそのサポートについての理解を深める	
	内容	ガイドヘルプ体験 (ガイドヘルプの仕方と白杖体験)	①準備するもの [社協から借用] ・白杖、点字ブロック、視覚障がい者用日常生活用具 [学校で準備] ・資料などを置く机、椅子2～4脚、ホワイトボード（体育館を使用時） ① 実施場所：通常教室、体育館、特別教室 ② その他 ・アイマスク及びそれを代用できる物（不織布マスク等）を装着した状態で学校内を歩くため、事故が起きないように、体験のサポートをお願いします。 ④ 事前打合せの方法：当日担当する講師名等を担当者から連絡（FAX またはメール）します。打合せ当日、学校でコース等を確認します。
	対応可能範囲	・40 人/クラス（同時間に2クラスまで） ・2 コマ/日まで	
	講師数/クラス	2～4 人（ボランティア）	
	社協からの借用物品 (最大数)	・白杖 30 本 ・点字ブロック（セット数は随時対応） ・視覚障がい者用日常生活用具 2 セット（1 クラス1 セット）	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

赤ちゃんとのふれあい&お世話体験	実施のねらい	子育てをしているお父さん、お母さんの講話や抱っこ体験などの交流を通して、自分自身も赤ちゃんと同じように誰かにとっての大切なかけがえのない存在であるということを実感する また周囲の人に対し、優しさをもって接するなど「ともに生きる」ことの大切さを学ぶ	
	内容	【赤ちゃん(乳幼児)の参加がある場合】 ・講話：赤ちゃんが生まれてからの生活について ・泣き声を聞きながらの作業体験 ・参加してくれた赤ちゃんやそのお父さん、お母さんとの交流会	①準備するもの [学校で準備] ・スクリーン、パソコン、プロジェクター、音量が大きく流れるラジカセ(泣き声を流すため)、計算問題等の用紙(作業体験で使用)、マイク(会場の規模によって用意をお願いすることがあります) ※ 体育館の場合は2本 ②実施場所： 体育館、または音楽室など広く使える教室 隣接する2つの教室 ③その他 ・小学校5年生以上を対象とします。 ・事前学習を推奨しています。0～3歳の子どもはどんなことができるのか、等について学んだり、自身の子ども時代を親に聞いてみたり、といった望ましい内容についてまとめた資料を打合せ時にお渡しするので、ご活用ください。 ④事前打合せの方法： 講師から学校へ電話し、学校で担任の先生との事前打合せを行います。当日使用する教室の様子を見せてください。(実施の1～2ヶ月頃前に行えるようお願いします)。
		【赤ちゃん(乳幼児)の参加がない場合】 ・講義：赤ちゃんがいる生活について ・泣き声を聞きながらの作業体験 ・人形を使つてのベビードダンス、あやし体験 ・赤ちゃん(乳幼児)を育てているお父さん、お母さんからのメッセージ動画視聴	
	対応可能範囲	・40人/クラス(同時に1クラスまで) ・2コマ/日まで ・体育館が使用可能な場合は2クラスまで可能 その場合は親子の人数を増やして対応 ※1コマ45分を想定しているため、ご配慮をお願いします	
	講師数/クラス	講師2人 ※上記の講師とは別に、当日のみ参加を呼び掛ける親子ボランティアの参加があります <u>親子ボランティア</u> については、依頼内容が確定したら、4～5組を募集する形のため、都合が合う人数で行います	
	社協からの借用物品(最大数)	赤ちゃんの人形 15体 (泣き声を聞きながらの作業体験を2人1組のペアになって行います。2人で1体を使用します)	



令和7年度 福祉体験学習実施内容一覧

2コマ以上の学習や、他の体験とのセットでの
学習などでより充実した内容で学習することが
できます！



※実施方法についての要望や疑問等がありましたら、市社協（85-4321）まで問い合わせください。